

# 生活 学習評価のポイント



## 1 評価の観点及びその趣旨

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な環境や自分自身に関心を持ち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習したり、生活したりしようとする。	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

## 2 生活科における評価の観点に関する考え方

生活科の評価の観点は、従前どおり三つの観点が設定されています。また、観点の趣旨についても、文言の整理が行われただけで内容は変わっていません。これまでも、「活動や体験についての思考・表現」については、思考と表現が一体的に表れる低学年の特徴を反映しており、出来映えとしての表現ではなく思考の表れとしての表現と考えられてきました。このことは、今回、各教科共通の評価の観点として、児童が思考・判断したことを表現活動と一体的にとらえる「思考・判断・表現」の考え方を先取りしていたととらえることができます。生活科における評価は、これまでも大事にしてきた評価の観点を再確認し、評価の観点の趣旨を正しく踏まえて行うことが重要です。以下に生活科における学習評価の進め方のポイントを示します。

### Point 1

#### 多面的で継続的な「関心・意欲・態度」の評価

「生活への関心・意欲・態度」の評価については、児童が身近な人、社会、自然、自分自身や自分の生活にどれほど関心を示し、どれほど意欲的に取り組んでいたか、また、そうした取り組みを通して、どのような態度を身に付けたかを評価します。児童の生活への関心・意欲・態度は、常に児童の行為や表現そのものに表れています。したがって、児童の姿を多面的に丁寧に見取り、また、継続的に長期にわたって児童の姿の変容をとらえることが大切です。

### Point 2

#### 「思考」と「表現」、 「思考」と「気付き」との関係の明確化

「活動や体験についての思考・表現」については、児童が調べたり、育てたり、作ったりするなどの具体的な活動や自分の生活において、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりするなどの思考の様子を評価します。さらに、活動や体験の楽しさや、考えたり、工夫したり、振り返ったりしたことなどを、自分なりに「すなおに表現」している姿を評価します。

「思考」とは、児童の内面で生じる働きなので見ることはできません。そこで、つぶやきや発言、行動、あるいは主体的に表現した絵や文などの「すなおな表現」から見取ります。「表現」だけを取り出して、その出来映えを評価しないように留意する必要があります。

生活科では、他教科における「知識・理解」を主体的な活動を通して自ら得る「気付き」としています。具体的な活動や体験を通して児童の中に生まれる「気付き」を大切に、どのようなことを、どのように気付いているかを評価します。「気付き」は「思考」と深くかかわっていますが、「思考」は過程であり、「思考」の結果として「気付き」があるという、「思考」と「気付き」の違いを意識することが重要です。